

“釜無川右岸用水を活用したハウス桜桃栽培”

山梨県



JAこま野^{にしの}西野支所ハウス^{おうとう}桜桃生産委員会

【山梨県南アルプス市】

受賞理由

- ① 加温ハウスの桜桃栽培で地域ブランドを確立
- ② 冬期のハウス内かん水の実施
- ③ 新たにハウスさくらんぼ観光農園を実施

事業を契機に桜桃のハウス栽培を開始

国営釜無川右岸地区(S40~49年度)は、甲府盆地の西側に位置し、御勅使川の氾濫により生じた砂礫層からなる扇状地で、地区の北部は穀倉地帯、中南部は果樹地帯が形成されています。

畑地かんがい施設の整備により安定した農業用水が確保されたことを契機に、昭和55年に西野地区の3人の農家で桜桃のハウス栽培を始めました。



↑ハウス桜桃への
スプリンクラー散水

↓貯蔵花粉
(-55°Cで花粉を保管)



冬期のハウス内かん水の実施

当釜無川右岸の畑地かんがい施設は、冬期は凍結防止のため原則としてスプリンクラーは使わないこととしており、冬期のかん水に係る重労働に苦労していたが、ドリップかんがい(樹下点滴かんがい)をいち早く導入することで、冬期かん水に係る労力の軽減を実現している。



加温ハウスの桜桃栽培で地域ブランドを確立

加温ハウスは温度管理が難しく、また、花の開花(2月頃)が露地栽培の桜桃(4月頃)とは異なるため花粉を確保するのが困難でしたが、加温機による温度管理や前年の花粉を貯蔵して使う方法を開発したことにより、適期受粉が可能となり、人工授粉が効率よくできるようになったことで、結実も良くなり、収量が増大しました。

このことにより、収益性の高い加温ハウスでの桜桃栽培が可能となり、市場でも評価の高いハウスさくらんぼとしてのブランドが確立されました。

新たにハウスさくらんぼ観光農園を実施

加温ハウスで栽培された桜桃は、JAを通じ市場に出荷され、高い品質と安定した生産により、有名デパートを中心に取り扱われてきましたが、変動ある市場取引によらない安定した収入を得るため、平成5年からJAを窓口としたハウスさくらんぼの観光にも取り組み、最も労力のかかる収穫作業の軽減と同時に、経営の安定を図っています。

ハウス桜桃生産委員会が国営事業等で整備された基盤を活用して確立したハウス桜桃栽培の温度管理や花粉貯蔵技術等の技術は、露地(サイドレス栽培)や他の果樹にも応用され、地域の果樹産地としての維持発展に大きく貢献している。